桃李（とうり）の里

福島市立中野小学校

学校だより

発行：校長　益子　朗

こぶしっ子も力作を多数出品！

第39回中野地区展覧会

去る２月13日（土）・14日（日）、中野地区生活改善センターにて、第39回中野地区展覧会が行われました。

会場には地区の皆さんの作品がずらり。絵画、民芸品、写真、切り絵、一閑張り、手芸品、ジグソーパズル、生け花など、どれも力作揃いです。

中野小学校からはこぶしっ子たちの絵画、書きぞめ、一閑張りを出品しました。また「桃李の里」と写真を使った展示も行いました。

当日は地域の方々がたくさん訪れ、作品をご覧になりました。館内には佐藤時雄師範のご指導による茶室も設けられ、お点前を楽しむこともできました。

また初日には餅つきも行われ、こぶしっ子たちも何と早紀先生も、餅つきを体験し、あんこ餅やきなこ餅に、舌鼓を打ちました。

入所者の皆さんもたくさん出品してくださいました。

餅つき大会で使う餅米は町内会連合会長の斎藤清様が毎年提供してくださっているのをはじめ、多くの皆さんのご芳志や持ち寄り、そしてボランティアで運営されています。

中野小学校としてもこぶしっ子たちの力作を多くの皆さんにご覧頂いたり、餅つきで世代間交流が行われたり、とても有意義な行事だと考えております。来年もまた楽しみにしたいと思います。

中野地区展覧会は、まさに他地区に誇れる地域行事だと思います。文字通り子どもからお年寄りまで、地域住民挙げての出品。けやきの村の

校長のつぶやき

目指せ！二〇二三年！

創立百五十周年の中野小学校！

今年も昇降口に、新しいだるまを飾らせていただきました。校長のふるさとの白河だるまです（決して宗教的な意味合いで置いたわけではありませんので、ご理解の上お許しいただければ幸いです）。

以前にもご説明しましたが、このだるまは江戸時代に白河藩主松平定信公が絵師谷文晁に命じて図案をつくらせたというもので、左のように顔に縁起物の「鶴・亀・松・竹・梅」が全て描かれています。

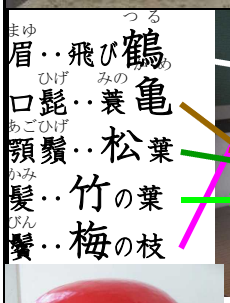
願い事をかける場合、だるまの左目に墨を入れます。そして願い事が叶うと右目にも目を入れた上で、神社やお寺などで行われる「どんと焼」で焚き上げて貰います。だるまの底面にはサイズが**「い・ろ・は・に・ほ・へ・と」**で表されていて、通常の家庭の神棚に置くのは**「い」**が最大で**「る」**が最小です。選挙などで用いられるもっと大きなものも特注であり、またさらに極小の**「豆」**もあります。各家庭では、毎年だるまを１サイズずつ上げて買い求め、**「い」**まで行くと翌年はまた**「る」**から買い始めるのが白河の風習です。

さて去年までは背中の願い事に、**「文武両道」**と書いていました。こぶしっ子たちは毎年その通りに大活躍してくれています。そこで今年度は、さらに長期の目標を書いてみました。

「創立百五十周年達成」

ご承知のように中野小学校は明治六年（一八七三年）の創立ですから、平成三五年（二〇二三年）に創立百五十周年を迎えます。今から七年後です。本校の児童数は飯坂トンネル開通後、少子化も重なって年々減少していますが、なんとかこの伝統ある中野小学校が百五十年、二百年と続いてほしいという遠大な願いです。

11月2日の創立記念日にもお話ししましたが、その年、今の６年生は20歳を迎え、１年生は中学３年生になります。６年生は、成人したらみんなで中野小に集まってタイムカプセルを開けることでしょう。先日の全校集会では、その時に忘れずにだるまの右目を入れて、母校の輝かしい歴史を祝ってほしいとお願いしました。



背面には願い事

「創立百五十周年達成」